

災害被災者の中長期的な心理社会影響についてのシステマティックレビュー

日本は地震大国と呼ばれるほど、これまでに沢山の地震を始めとする自然災害を経験してきた。大規模な災害は日本のみならず世界中で発生し、その数も年々増えている。災害がもたらす影響は建物や道路などのインフラの喪失に加え、個人レベルでは家族、友人・知人、財産、仕事の喪失と被災に関連した心身の不調などがあげられる。

心のケアの重要性は阪神淡路大震災以降広く認識されるようになってきたが、震災後の中長期的な心理社会影響については包括的アプローチを行った先行研究が少なく、エビデンスの少ない災害医療分野においても特に研究が進んでいない領域である。震災後に中長期的な問題となる心理社会的な影響の要素を明らかにし、一つ一つの要素についてどのような対策や改善を実施すればその影響を最小限に抑えることができるかという研究が日本、そして世界の防災対策にとって必要とされている。

今回、震災後における長期的な心理社会影響について過去の知識・経験を集約する事を目的に PubMed を用いた文献レビューを行った。その結果を紹介し、特に災害弱者である高齢者を対象とした震災前後の健康状態と長期的な心理社会影響についての研究の可能性について検討する。